

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	イースタン州コウ・イースト郡にて、MDG5（妊産婦の健康の改善）が達成される。
(2) 事業内容	<p>2013年（平成25年）12月18日～2014年（平成26年）6月17日までに実施された事業内容と経過は以下の通り。</p> <p>全体</p> <p>1. リプロダクティブ・ヘルス（RH）サービスの改善及び確立</p> <p>イ) <u>地域保健師による基礎的保健医療サービス（CHPS）診療所1か所の建設</u></p> <p>2期目に3か所のコミュニティに建設されたCHPS診療所に加え、今期は、4つ目のコミュニティであるボンクラセにCHPS診療所を建設し、6月中旬に完成した。6月19日に地域住民の参加協力により開所式が予定されている。これにより、全対象地域で住民が基本的保健サービスを身近で受けられる環境が整う。詳細は、別添3. 建設進捗報告書（英文）参照。</p> <p>ロ) <u>RHセンター併設母子健診スペース整備</u></p> <p>RHセンターの利用者は定着・増加しており、今後の利用者のさらなる増加を考慮し、これまで施設内の待合室スペース等を利用して実施してきた定期的な母子健診（毎週、火曜日と金曜日に乳児の体重測定、予防接種、栄養指導および必要に応じた栄養補助食品の供与、母親との問診等を実施）のためのスペースを確保するため、敷地内に一般来院者とは区別した屋根付き母子健診スペースを建設し、6月中旬に完成した。別添3. 建設進捗報告書（英文）参照。</p> <p>ハ) <u>RHセンター経営自立発展計画の改定</u></p> <p>プロジェクト終了後に向けて、1年次（2012年10月）に策定した同計画を、実績を基に関係者間で見直すため、3月に第1回目のレビュー</p>

会議を実施した。今後、6月から9月には継続してレビュー会議を行い、より実現可能性・効率性の高い計画の策定と運営体制を確立していく予定である。別添4. リプロダクティブ・ヘルス・センター(RHセンター)経営自立発展計画レビュー会議(和文)参照。

二) 医療従事者の研修・能力強化(再研修の実施)

RHセンターの保健スタッフおよびCHPS診療所に配属された地域保健師(CHO)計13名に対して、特にニーズの高い家族計画カウンセリング技能や避妊技術(特に長期有効な避妊法)を中心とする質の高いサービスを提供するための再研修を5月に実施した。今後も研修後フォローアップと継続教育を予定している。別添5. 医療従事者能力強化研修(和文)参照。4月にはRHセンターの医療の質の向上・緊急時の対応強化のため、准医師がGHS主催の緊急時ケア研修へ参加した。

ホ) RHセンターとCHPS診療所を拠点とした巡回診療サービスの実施を拠点とした巡回診療サービスの実施

両施設におけるサービスの提供に加え、2年次に調達した対岸地区への移動のためのボート(1台)、車両(1台)、CHPS診療所用のバイク(各1台)を活用し、郡保健局と連携して近隣コミュニティへの巡回診療を定期的実施している。巡回サービスによる診療件数は、2013年第1四半期に月平均386件であったが、2014年第1四半期には月平均417件であった。この巡回診療サービスを通して、施設まで来ることができない人々に対してもサービスを継続して提供している。

へ) 搬送・連携(レファラル)システムの構築

保健施設に設置される住民参加の地域保健運営委員会の活動や地域保健ボランティアによる啓発活動を通して、地域住民と保健施設の連携協力を進めている。プロジェクトで供与した車両、モーターバイク、モーターボート等を有効活用し、地域からCHPS診療所、RHセンター、近隣病院に至る搬送・連携システムを強化するため、搬送可能ルートをマッピングにて可視化し共有した。

2. 住民啓発活動

イ) BCC（行動変容のためのコミュニケーション）戦略の実施・草の根でのRH啓発活動の強化・定着

本事業が目指す家族計画実行率の上昇や安全な妊娠・出産の推進を目的として1年次に策定したBCC戦略および2年次に制作した啓発用メディア教材をもとに、以下の通り、草の根でのRH啓発活動の強化及び定着を図った。

① 地域保健ボランティアの能力強化（再研修の実施）

2年次に選定・育成された地域保健ボランティア（約90名）に対し、彼らの能力強化を図るため、家庭訪問、ピア（仲間）教育、カウンセリングや避妊具の配布といった彼らの草の根の活動を振り返り、改善へ向けての協議・検討を行う再研修を2つのグループに分けて現在実施中である。コミュニケーション技術、効果的な教材活用の方法、クライアント（特に若者）にとって優しい（利用しやすい）カウンセリングの技術、母子保健全般に関する知識、特にニーズの高い家族計画に関する知識の再確認や、誤解や思い違いへの対応の方法を伝えることを主題に実施し、プロジェクト終了後も継続して活動が維持できるような体制固めを進めている。2年次に制作したCOMMONモチーフ（メッセージ入りロゴマーク）をボランティア用バッグや、教材に付けることで、共通の目的に向かって意識を高めていく。

② 地域保健ボランティア活動に必要な啓発教材の追加調達・増刷

2年次に制作及び調達した住民へ配布するパンフレット等の地域保健ボランティア活動用の啓発教材の追加増刷を予定している。これらにもCOMMONモチーフを用いる。

③ メディア教材を活用した啓発活動の展開

2年次に制作した脚本を使った地方劇団による上演活動や、ラジオドラマの地域放送（日本の町内放送）を継続して実施している。地域保健ボランティアの活動と連動し、同放送を利用した電話相談や参加型意見交換の場を設け、住民の関心を喚起し、啓発活動の相乗効果を図っている。また、より広い地域の住民を対象としたローカル

FM ラジオ局による放送も計画している。

3. モニタリング・マネジメント・自立発展性

イ) コミュニティ参加型マネジメントシステムの構築

① コトソ RH センター運営委員会

半期で2回(2月11日、5月28日)開催し、サービスの提供・利用状況、課題と対策など、センターの適切な運営のために必要な事項についての協議を重ねた。別添 6. RH センター運営委員会開催報告概要参照。

② CHPS 診療所地域保健運営委員会

保健省のCHPS プロトコル(実施要項)に従い、各CHPS 診療所には保健スタッフと地域住民代表から成る地域保健運営委員会が組織されている。CHPS 診療所の運営に向けて、同委員会メンバーとCHPS 診療所スタッフと合同で「地域保健運営委員会研修」を3月に実施した。今後は、CHPS 診療所スタッフや地域保健ボランティアと連携しながら同委員会が中心となってCHPS 診療所の運営にあたる。また、郡保健局との共同により草の根レベルでの活動計画やモニタリング(進捗管理)実施の仕組みの確立・定着を図っていく。別添 7. 地域保健運営委員会研修報告概要参照。

ロ) モニタリング・評価

1年次・2年次と同様にモニタリング活動を定期的実施しているほか、地域保健ボランティア活動の成果を評価し、活動内容についての指導を行うための会合を定期的に行っている。また、プロジェクトで提供するRH サービスに関する覆面調査と出口調査を行い、その結果を関係者に共有することで、サービスの質の向上を図る(上述(ホ))。さらに、最終年次であるため、プロジェクトの成果全体を検証するため現地協力機関(PPAG)と協力し小規模の最終評価調査(保健スタッフ・住民への面談調査を想定)を実施予定である。

ハ) プロセス・ドキュメンテーション(実践の記録)

	<p>プロジェクト開始時より実施しているビデオや文書によるプロジェクト活動の様子や成果の記録を、3年次も継続している。今後、プロジェクト全体の記録を取りまとめ、プロジェクト終了時のワークショップにおいて関係機関に報告・経験共有を行う予定である。</p>
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>1. RH サービスへのアクセスの改善</p> <p>RHセンターの一般外来受診者数は、2013年第1四半期では836人であったが、2014年第1四半期では1,710人であった。産前健診受診件数は、2013年第1四半期では48件、2014年第1四半期では486件であり、出産件数は、2013年第1四半期では2件、2014年第1四半期では52件であった。コトソ地域住民代表（地域議会メンバー）から「妊産婦への対応が良いとRHセンターの助産師に対する評判は良い」との声が聞かれた。各施設や巡回診療で実施している5歳以下の乳幼児を対象とした子ども健診日には、身長・体重測定、予防接種に加え、母親対象に栄養相談や家族計画相談が行われている。2013年第1四半期は月平均291件が実施されたが、2014年第1四半期では月平均400件以上実施されている。</p> <p>2. RHに関する啓発活動</p> <p>活動中の地域保健ボランティアによる家庭訪問（個別相談・グループ相談活動）を通じて、妊娠・出産に関する情報と家族計画に関する情報を提供した。1月から3月に実施した家庭訪問の件数は292件で計875人に情報提供を行った。また、1月から3月にプロジェクト地区内6か所において、家族計画に関するフィルム上映会を計8回行い、1,489人の住民を対象に上映会後の健康に関する講話や質疑応答を行った。地域保健ボランティアの活動用に配布した啓発用パンフレットとフリップチャート（安全な妊娠・出産、家族計画）や避妊具説明のためのモデルといったボランティア用キットを使用した積極的な情報提供を行っている。</p>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>3年次の主要な活動は、RHセンターおよび4か所のCHPS診療所におけるRHサービスをさらに拡充するとともに、地域保健ボランティアを中心とした啓発活動を展開し、住民にとってより身近なサービスの利用を促進することである。プロジェクト対象地域ではサービスの利用が着実に増加しており、今</p>

期終了時にはプロジェクト対象地域の住民のRHが改善されることが期待できる。

3年次はプロジェクトの最終年であり、より実現可能性・効率性の高いRHセンターの経営自立発展計画を確立するため、これまでの活動実績をもとにレビュー会議を複数回開催し、住民の協力のもと、関係機関の連携による活動の継続と自立発展性の確保に向けた体制を整える。RHセンターおよびCHPS診療所を建設したコミュニティ5か所で住民集会を開催し、プロジェクト終了報告とともに、地域保健運営委員会メンバーや地域保健ボランティアを中心とした住民による継続的協力の意思の確認と宣言を行う。これにより、今後の活動の持続・発展に向けた動機付けを強化する。

また、3年間のプロジェクトの成果を評価し、その経験や教訓を関係機関で共有する引き継ぎワークショップ（報告会）を実施し、プロジェクト終了後のRHセンター運営・維持管理と協力体制の確認を行う。